

出量の1ルだ。さまざまな方法で会員サー
 建築関 ビスのさらなる充実を図り、建築学
 コシ2 会の会員であることのメリットを感
 フル化 じてもらえば、会員増強にもつなが
 さまと っていくだろう。支部・支所自体が
 十事 より活発に活動すると同時に、本部
 体的な として何ができるのかもしっかりと
 しい 議論していただきたい。

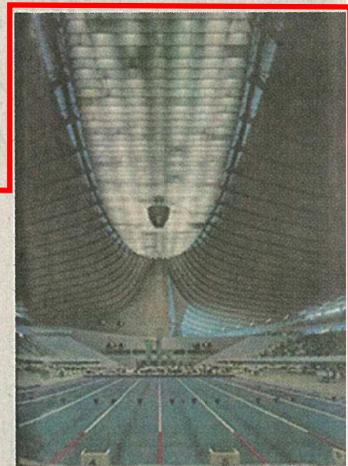
能力必要

が重 事はそもそも営利的な競争
 にはなじまない。しかし人
 建築 数が増えたと競争が激しく
 造す なる」というのがその理由
 人を という。

競争の弊害の一例として
 築士 挙げたのが、建築確認検査
 クリ の民間開放だ。神崎氏は
 摘。「行政の審査能力が低下し
 きた」と訴えた。

普通 さらに両機能には人の夢と
 いう 痛みの両面が分かる能力も
 なし 必要だとし、「創造力」
 と「想像力」の二つの「そ
 な能 うぞうりよく」の重要性を
 ネー 力説した。

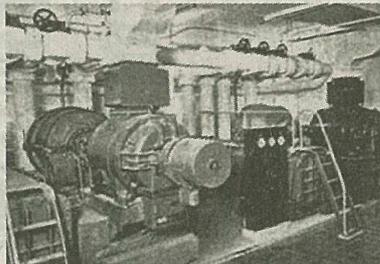
たので、しっかりと審査でき
 る人が厳格に審査する目的
 で民間確認検査機関ができ
 たが、審査が厳しいと施主
 の希望通りにならないこと
 もある。すると競争原理が
 働き、安くて早い機関に流
 れる」と現状を批判。人数
 を絞り、重い責任を持たせ
 ることで社会的地位や発言
 力を高めることが必要との
 主張を展開した。



建築設備技術者協会（J
 ABME、川瀬貴晴会長）
 は、建築設備の「技術」
 「役割」「文化」を多くの
 人たちに知ってもらうこと
 を目的に創設した「建築設
 備技術遺産」の13年度認定
 遺産を決めた。2回目とな
 る今回は、再応募1件を含
 む11件に加え、前回認定か
 ら漏れた22件を再審査。計
 33件の中から、認定委員会

建築設備技術遺産に5件認定

旧京都電燈本社社屋の
 地下水熱源ヒートポン
 プ空調システム

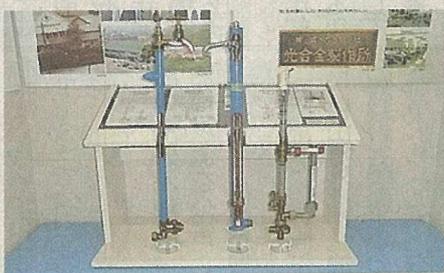


認定された5件のうち、
 「旧京都電燈本社社屋の地
 下水熱源ヒートポンプ空調
 システム」は、1937年
 に世界最大規模のヒートポ
 ンプ冷暖房装置として整備
 された。暖房にボイラーや
 電熱などが必要としないと
 という思想が現代の省エネの
 考え方につながるなどと評
 価された。他の4件につい
 ても、歴史的・技術的に次
 世代に伝承する価値がある
 と認められた。

1920年製作の丸ノ
 内ビルディングの接地板
 不凍水抜き栓（光合金製
 作所提供）

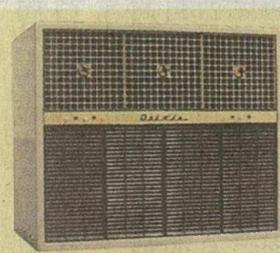


1920年製作の丸ノ
 内ビルディングの接地板
 田電機製作所
 不凍水抜き栓 小樽歴
 史館（所有者は光合金製作
 所）



▲大空間換気（空調）設備が使われている国立代々
 木競技場のプール

▲日本初のロータリーコンプレッサーを搭載した
 ウィンドクーラー（ダイキン工業提供）



建築設備技術遺産は、空
 調・衛生・電気・搬送の4
 領域に関する技術と技術者
 の歴史的な足跡を示す「事
 物」「資料」が認定対象。
 建築設備技術の進歩・発展
 に重要な成果を挙げ、生活
 や経済、社会、地球環境、技
 術教育に貢献したもののや、
 当時の技術を反映したもの
 を認定する。今回から、新

規応募分に加え、過去1年
 分の応募物件も再審査し、
 対象に加えることになっ
 た。
 今回認定された建築設備
 技術遺産5件と管理者は次
 の通り。
 ▼旧京都電燈本社社屋の
 地下水熱源ヒートポンプ空
 調システム 関電ビルマネ
 ージメント
 ▼国立代々木競技場大空
 間換気（空調）設備 日本
 スポーツ振興センター（設
 計関連資料の提供は井上宇
 市設備研究所）
 ▼日本初のロータリーコ
 ンプレッサーを搭載したウ
 インドクーラー及びビル用
 マルチエアコン ダイキン
 工業